

◎自由発表（第5会場）【座長・司会】稲田 雅巳（関西地区研究会常任幹事）

【演 題 等】「課題予防的生徒指導（課題早期発対応）を目指した取組」

～子どもたちの日々の心情の可視化～

【講演・発表者】和歌山県九度山町立河根小中学校 教諭 植木 雅明

・発表概要

和歌山県九度山町立河根小中学校で令和6年度から児童生徒の心情の可視化を実践した。児童生徒は朝、登校後に一人一台端末でその日の心情や体調を入力することにより、教員は児童の様子を客観的に把握することができた。また必要に応じて児童生徒は教員等に相談希望を入力することができ、SOSを出す一助となった。

・発表要旨

○学校紹介

- ・児童生徒数は併せて20名程度であり、豊かな自然の中で、児童生徒がのびのびと学習に取り組める環境である。
- ・繊細な児童生徒が多いことから、心情の可視化が必要であると考え、本実践に取り組んだ。

○心の健康観察の取組

- ・令和6年度、Microsoft Reflect（無料版）を実施した。
※Microsoft Reflect…児童生徒はその日の気持ちに合うマークを選択。日々の記録がグラフ化され可視化される。児童生徒は自分の記録を見て、自分の心情を客観的に把握することができる。
- ・令和7年度、デイケン（有料版）を実施した。
※デイケン…Microsoft Reflectに加えて体調面の入力ができる。また、悩み相談を希望するボタンもあり入力された際は教員が対応している。

○取組の実際

- ・登校した児童生徒が一人一台端末で心情を入力する。
- ・定期的に自分の記録の振り返りを行う。
- ・気になる児童生徒には、教員が児童生徒に面談したり、保護者への連絡をしたりする。また、日々の記録を見ながら懇談会で保護者と児童生徒の様子について話す。

○Microsoft Reflect の成果と課題

△成果

- ・普段、教員から見ると活発で安定した学校生活を送っている児童でも、不安感が強い日などがあることがわかり、声掛けのタイミングが把握しやすかった。
- ・定期テストの前後で大きく心情が揺れ動いている生徒の把握に役立った。
- ・児童生徒が誰にも知られずに教員にSOSを出せるのは良いという児童生徒からの意見があった。

△課題

- ・学級がうまくいっていない状況でMicrosoft Reflectに取り組むと、マイナスの意見や傾向ばかりになり、より対応が困難になるのではないかと懸念される。
- ・児童生徒が出したSOSを見逃してしまった場合など、教員の責任を問われる機会が増えるのではないかな。
- ・取組の目的やその重要性について教員への周知を継続して行う必要がある。



・質疑応答の概要

Q1 相談希望をした児童生徒をスクールカウンセラーにつなぐことはあるのか。

A1 児童生徒だけでなく保護者と連携した上で、スクールカウンセラーにつなぐことはある。

Q2 今後、Microsoft Reflect やデイケンを使用せずとも SOS を出せる児童生徒の育成をめざすのか、これらの活用を継続しながら取り組むのかどちらか。

A2 現在、デイケンを始めたばかりなので、今後の検討事項である。

Q3 Microsoft Reflect の日々の記録を児童生徒同士で共有できるか。

A3 できない。共有するメリットもあるが、デメリットも大きいと考える。